

エッセンス情報

日産合成工業株式会社 本社 TEL:03-3716-1211 FAX:03-3716-1214
http://www.nissangosei.co.jp

乳牛の疾病は周産期に集中して発生します

この理由はこの時期の乳牛は生理的な変動が大きく、また強いストレスを受けるためと考えられています。個々の疾病の原因や対策

については[酪農・豆知識 第13号](#)、[第14号](#)および[第15号](#)にまとめてあります。

乳牛は分娩前後には食欲が低下します

分娩10日～7日前ごろの食欲不振は、分娩の前兆による生理的な要因が大部分ですが、このほかに肝臓機能減退、脂肪肝あるいは乾乳後期用飼料への切り換えの不適、急変等によるルーメン発酵の混乱などが考えられます。

分娩直後は生理的にも乳量の増加に見合う乾物を摂取することはすぐには困難です。低カルシウム血症でも胎盤停滞でもないのに、

なお食欲が落ちて来る場合には、エネルギー不足からくるケトーシスを凝ってみる必要があります。対応は獣医師にお願いすることになりますが、ケトーシスを発症した牛は、治療しても泌乳量や繁殖成績が低下してしまうため、適正に飼養管理して予防対策に心がけることが重要です。

エネルギーと蛋白質の補給

分娩直後の飼料摂取量不足や食欲の低下に伴ってエネルギー・蛋白質バランス（出納）がマイナス（不足）になります。

エネルギー不足に伴い、糖質および脂質の代謝障害がおこると、ケトーシスになりやすいことがわかっています。ケトーシスを発症するとさらに食欲が低下し、エネルギー不足がひどくなり、ケトーシスが悪化するという悪循環になります。ケトーシスの治療法として血中グルコースを増加させることが有効とされており、ブドウ糖や糖蜜のような吸収性にすぐれた即効性のエネルギー源の補給が有効です。また、アルコールもルーメン微生物によって揮発性脂肪酸に代謝・吸収され、効

率のよいエネルギー源になります。

しかし、即効性のエネルギー源の補給だけでは泌乳初期のエネルギーをまかなえませんので、不足分は体脂肪をリポ蛋白質に変えて補います。このリポ蛋白質の合成にはメチル基の供給が必要でその主要な給源はメチオニンです。またベタインもメチル基の給源として有効とされています。

メチオニンは、体蛋白質や乳蛋白質の生合成に必要な必須アミノ酸です。また不足しやすい必須アミノ酸としてリジンがあります。メチオニンもリジンの牛体内では合成できませんので、飼料としての補給が不可欠です。

ビタミンB群の給与

ビタミンB群は糖質・脂質・アミノ酸代謝

に不可欠な補酵素として働きます。

これまでビタミンB群は、ルーメンの発達した成牛では、要求量を満たす量がルーメン内微生物によって合成されると考えられていました。しかし最近では、乳量の増加等により微生物による合成量のみでは不足することが明らかになってきました。

この裏付けの一つとして132頭の泌乳牛を用いて乳生産、体重の変化、繁殖成績に対するニコチン酸アミド、コリン、チアミンを含

むビタミンB群の給与効果を調べた研究があります。ビタミンB群を給与した試験区および給与しなかった対照区では乳量、乳質、体重の変化では有意な効果が見られませんでした。受胎率（ビタミンB群給与区 77.3%および無給与区 63.6%）及び繁殖障害の発生率（ビタミンB群給与区 19.7%および無給与区 48.5%）では、ビタミンB群を給与した区の成績が優れていたと報告されています。

メチビタ・V

当社では、メチオニン、リジン、ビタミンB群、食欲を増進する飼料用アルコール、その他の分娩後に不可欠な必要な栄養素を高濃度に含む、「メチビタ・V」を開発し、販売しております。

「メチビタ・V」は分娩前後の食欲が落ち

たとき、分娩後の体力を回復させたいとき、アミノ酸とエネルギーを補給したいときだけではなく、栄養バランスを整え疲労回復をしたいとき、暑熱のため飼料摂取量が落ち、体力が落ちているとき、そして輸送などで体力が消耗しているときに給与すると有効です。



メチビタ・Vについては、当社ホームページ（下記のアドレス）で紹介しております。
また、ご質問等がございましたら、ホームページ中の「お問い合わせ」のページをご利用ください。
日産合成工業株式会社 TEL:03-3716-1211 FAX:03-3716-1214
<http://www.nissangosei.co.jp>